

『日本語スタイルガイド』 の活用とTC技術検定

産業日本語研究会・シンポジウム2013(2013.3.1)

高橋 尚子

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会専務理事
國學院大學経済学部教授

本日の流れ

- テクニカルコミュニケーター協会とは
- 『日本語スタイルガイド』
 - 出版までの経緯
 - 目次内容
 - ライティング部分の紹介
- 『日本語スタイルガイド』の活用事例
 - TC技術検定3級[TW]ガイドブック
 - 「日本語スタイルガイド」出前セミナー
 - 高等教育におけるTC専門課程制度
- 最後に・・・新しい動き

(1) 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

- 略称： TC協会
 - 英文名称： Japan Technical Communicators Association (略JTCA)
 - 創設： 1992年1月・・・昨年20周年を迎える
 - 製品やサービスの使用説明を扱う専門家の団体
 - 目指すもの
 - 「使用説明」の品質向上によって、誰もが安全かつ簡単に最新の技術を利用することができ、仕事や生活の質を高めることができる社会の実現
 - TC技術の発展と普及を促し、その応用範囲の拡大
 - TC技術に携わる人々の間で情報共有と情報交換
 - デザイン、ユーザビリティ設計、システム設計、国際マーケティングなど関連分野との交流
 - 会員数： 法人会員約100社、個人会員約200名
- URL → <http://www.jtca.org/index.html>

TC協会の沿革

| | |
|---------|--|
| 1989.6 | 第1回TCシンポジウム「いま、日本のマニュアルを考える」開催。以降、毎年開催 |
| 1992.1 | 任意団体「テクニカルコミュニケーター協会」として設立 |
| 1992.6 | 「マニュアル評価ガイドライン」発行。以降、毎年さまざまなテーマで調査報告書発行 |
| 1997.3 | 「テクニカルコミュニケーション 技術検定<分野:テクニカルライティング>3級ガイドブック」発行★ |
| 1998.2 | TC 技術検定試験<分野:テクニカルライティング3級>を実施(2003年以降の呼称は初級)。以降、2009年まで毎年1回実施 |
| 1999.12 | TCシンポジウムを大阪で開催。以降、毎年関西地区でも開催 |
| 2000.3 | 「テクニカルコミュニケーション 技術検定<分野:テクニカルライティング>2級ガイドブック」発行★ |
| 2000.4 | 日本マニュアルコンテスト単独開催開始。以降、毎年実施 |
| 2001.2 | TC 技術検定試験<分野:テクニカルライティング2級>を実施(2003年以降の呼称は上級)。以降、2009年まで毎年1回実施 |
| 2009.1 | 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会として活動 |
| 2009.7 | 『日本語スタイルガイド』(初版)発行★ |
| 2010.2 | 新しい枠組みでのTC技術検定試験3級テクニカルライティング[TW]を実施。以降、毎年2回7月・2月実施 |

TC協会の活動内容

■ 公益事業

- TCシンポジウム
 - ・・・協会発足の前から毎年実施、今年25周年を迎える
- 日本マニュアルコンテスト
- 標準規格の策定
- 学術研究および産学協同プロジェクトの推進
- 海外市場向け製品の表示情報に関する調査など

■ 収益事業

- 人材育成(セミナー、高等教育など)
- TC技術検定の実施(国内、国際とも)
- 出版(関連書籍、会誌など)
- 受託事業(マニュアル評価など)

「テクニカルコミュニケーション」とは

- 製品やサービスに関して、利用者が求める情報を、正確にわかりやすく表現すると共に、効果的に伝達し、提供すること。略して「TC」という。この情報の提供を実現するためのさまざまな技術を「TC技術」という。
- TC技術の特徴
 - 印刷媒体から画面に表示される電子媒体まで、さまざまな媒体で提供する
 - 文章、図解、イラスト、写真、音声、動画など、さまざまな要素を適切に配置し、構成する
 - 読み手の属性・状況・要求を的確に想定し、製品やサービスとのよい関係をつくる
 - 適用分野は、使用説明(取扱説明書、カタログなど)、技術文書、業務マニュアル、ビジネス文書、Web掲載情報、論文まで多種多様である(ただし、法令文や広告文などは適用外)

「テクニカルライティング」とは

- 技術的な情報を、正確かつわかりやすく効率的に伝えるための文章作成技術
 - その誕生・・・
 - 工業化が進展し、新しい科学技術を応用した製品を安全に間違いなく取り扱えるよう、使用方法や操作手順などを伝える必要
例えば...航空機のメンテナンスマニュアルなど
 - その発展・・・
 - 1970年以降、業務でのコンピュータ利用が急増し、情報システムという見えない仕組みを理解し、使えるようになるために説明が必要に
 - 1980年代後半以降、専門知識を持たない個人のPC利用が広まり、複雑な機能を理解し、操作できるように、適切な説明技術が重要に
 - その後・・・
 - 各企業や任意団体での技術の追求、わかりやすいマニュアル作成への取り組みが始まる
- ※ 専門的で難解な科学技術論文をわかりやすく書く「サイエンスライティング」とは一線を画す

(2)『日本語スタイルガイド』

- 2009年7月 初版発行
2011年4月 第2版発行(改訂常用漢字に対応)
- 価格： 2,520円(税込)
- 総発行部数： 4300部(2012年末現在)
- 執筆者：
TC技術検定部会委員を含めTC協会関係者(雨宮 拓・勝田豊彦・
黒田 聡・高橋慈子・高橋尚子・徳田直樹・富永敦子・永山嘉昭)
- 本書の概要：
 - 長年使用説明の制作に携わった経験を土台として、わかりやすく効率的に情報を伝えるための日本語作文技術の要点をまとめたもの
 - テクニカルライティングの知識や経験に基づき、より広範な日本語の文章表現技術に応用できるよう、基本的な指針を集大成したもの
- 利用方法：
 - 常にデスクに置いて関連ページを参照する
 - TC技術検定3級[TW]受験のガイドブックとする

発行までの変遷

| | |
|--------|--|
| 1992.6 | 「マニュアル評価ガイドライン」調査報告 |
| 1994.5 | 「人材育成のための教育カリキュラム」調査報告 |
| 1995.5 | 「TC資格認定制度に関する調査研究報告書」発行 |
| 1996.3 | 「TC技術検定制度に関する調査報告書」発行 |
| 1997.3 | 「テクニカルコミュニケーション 技術検定<分野:テクニカルライティング>3級ガイドブック」発行① |
| 2000.3 | 「テクニカルコミュニケーション 技術検定<分野:テクニカルライティング>2級ガイドブック」発行② |
| 2003.1 | 「テクニカルコミュニケーション技術検定ーテクニカルライティング試験ガイドブック」発行③ |
| 2004.1 | 「マニュアルライティングーテクニカルコミュニケーション技術検定・テクニカルライティング分野受験対策テキスト」発行 |
| 2009.7 | 『日本語スタイルガイド』(初版)発行④ |
| 2011.4 | 「日本語スタイルガイド」(第2版)発行 |

①「テクニカルコミュニケーション 技術検定 ＜分野：テクニカルライティング＞3級ガイドブック」

- 1997年3月 初版発行
- 執筆者：TC技術検定専門委員会から選ばれた委員
- 本書の概要
 - 1994年および1995年の調査報告書に基づき、TC技術試験の技術要素を解説した3級の受験用ガイドブックとして発行
 - 章構成は、マニュアルの制作工程に沿っている。「ライティング技法」の2章は、最もページ数を割いて記述
- 価格：3,800円(税込)

＜目次＞

- 1章 企画・構成
- 2章 ライティング技法
 - 2.1 日本語文法
 - 2.2 用字・用語
 - 2.3 文章表現の基本
 - 2.4 文法と文章表現
 - 2.5 読みやすい文章表現
 - 2.6 文章の組み立て方
- 3章 ビジュアル表現
- 4章 制作に関する技術
- 5章 付帯する技術
- 6章 評価・管理
- 付録 検定する技術の区分

②「テクニカルコミュニケーション 技術検定 ＜分野：テクニカルライティング＞2級ガイドブック」

- 2000年3月 初版発行
- 執筆者：TC技術検定専門委員会から選ばれた委員11名
- 本書の概要
 - 3級ガイドブックと1997年に発行した調査報告書に基づき、2級としての内容を深め、加筆し、TC技術試験の技術要素を解説した2級の受験用ガイドブックとして発行
 - 章構成などは3級と同じ
1章に新しい工程を追加
- 価格：3,800円(税込)

＜目次＞

- 1章 企画・構成・**表現設計**
- 2章 **ライティング技法**
 - 2.1 日本語文法
 - 2.2 用字・用語
 - 2.3 文章表現の基本
 - 2.4 文法と文章表現
 - 2.5 読みやすい文章表現
 - 2.6 文章の組み立て方
- 3章 ビジュアル表現
- 4章 制作に関する技術
- 5章 付帯する技術
- 6章 評価・管理
- 付録 検定する技術の区分

③「テクニカルコミュニケーション技術検定ー テクニカルライティング試験ガイドブック」

- 2003年1月 初版発行
2005年10月 初版2刷
- 価格： **3,990**円(税込)
- 執筆者：TC技術検定専門委員
を含めTC協会関係者
- 本書の概要
 - 2級ガイドブックをベースに、
新たな制作工程(下線部)や
媒体を追加し、2級・3級ど
ちらでも使用できる受験ガイド
ブックとして発行
(*の一部を3級の技術要素
から除外)

<目次>

はじめに TC技術検定試験概要

第1章 企画・構成・表現設計

第2章 **ライティング技術**

2.1 日本語文法

2.2 用字・用語

2.3 文章表現の基本

2.4 文法と文章表現

2.5 読みやすい文章表現

2.6 文章の組み立て方

第3章 ビジュアル表現

第4章 制作に関する技術**

第5章 電子マニュアル**

第6章 付帯する技術

第7章 評価・管理**

付録 TC技術検定試験例題

④「日本語スタイルガイド」目次

第1編 文書作成における説明技術

第1章 さまざまな実用文

第2章 日本語スタイルガイドとテクニカルライティング技術

第3章 文書として仕上げるテクニカルコミュニケーション技術

第2編 日本語スタイルガイド

第1章 文法、用字・用語、表記を理解する

第2章 読みやすく書く

第3章 誤解されないように書く

第3編 テクニカルライティング技術の要点

第1章 情報理解に基づきコンテキストを組み立てる

第2章 読み手のことを考えたライティング

第3章 文章の完成度を高め安定させる

第4編 テクニカルライティング技術の基礎

第1章 表現設計の基本を知る

第2章 構造化に配慮して文書を設計する

第3章 ツールを活用して作業効率を高める

第4章 コンプライアンスに配慮する

付録

漢字とひらがなの使い分け、外来語(カタカナ)表記ガイドライン、改定常用漢字表

TC技術検定試験の概要、TC技術検定3級試験例題

ライティング技術

ライティングに関わる部分の紹介(第2編)

第2編 日本語スタイルガイド

第1章 文法、用字・用語、表記を理解する

- 1.1 日本語文法
- 1.2 用字・用語
- 1.3 表記

第2章 読みやすく書く

- 2.1 文体と時制に留意する
- 2.2 一文一義で書く
- 2.3 文末の書き方を使い分ける
- 2.4 1文の長さに気をつける
- 2.5 主語と述語を正しく使う
- 2.6 修飾語を正しく使う
- 2.7 助詞を正しく使う
- 2.8 句読点を正しく打つ

第3章 誤解されないように書く

- 3.1 否定表現に気をつける
- 3.2 可能表現に気をつける
- 3.3 比喩に気をつける
- 3.4 強調に気をつける
- 3.5 範囲、起点の明確な文を書く
- 3.6 数値を使って表現する
- 3.7 注意が必要な表現

※ 1つの文について、文法に従い、正確に伝えるための書き方、使い分けを解説

ライティング部分の詳細(例)

- 助詞の使い方を具体的な例で示し、解説を行っている

(例)2.7.3 「に」と「へ」を区別して使う

表 2.21

| 例 | 解説 |
|--|--|
| × カーソルを次の項目へ移動します。 ○ カーソルを次の項目に移動します。 | 上の文も間違いではないが、「項目」という到達点については「に」を使うように統一するとよい |

(例)2.7.4 「より」と「から」を区別して使う

表 2.22

| 例 | 解説 |
|--------------------------|------------------------------|
| × 4月より9月まで ○ 4月から9月まで | 「4月」が基点なので、「より」を使わずに「から」を使う。 |
| ○ 4月より9月のほうが、問い合わせ件数が多い。 | 「4月」と「9月」を比較しているので、「より」を使う。 |

ライティングに関わる部分の紹介(第3編)

- 2編「日本語スタイルガイド」に沿って、書くことだけでは実現できない技術をまとめたもの
 - 情報を理解し、整理する
 - 伝える目的を明確にし、相手(読み手)の知識や意識に配慮する
 - コンテキストを組み立て、全体の構想を練る
 - 文章を推敲し、書き直して品質を高め、完成度を高める
- ※一つ一つの文が正確で読みやすくても、伝わらないことがある。
読む相手を考えて書くという態度を解説

第3編 テクニカルライティング技術の要点

第1章 情報理解に基づきコンテキストを組み立てる

- 1.1 対象の理解と情報の整理
- 1.2 伝える「目的」と伝える「相手(読み手)」を明確にする

第2章 読み手のことを考えたライティング

- 2.1 読み手の「知識」に配慮する
- 2.2 読み手の「意識」に配慮する
- 2.3 読み手の「心情」に配慮する
- 2.4 「認知や行動の仕方」に配慮する

第3章 文書の完成度を高め安定させる

- 3.1 文章の推敲とリライト
- 3.2 情報の更新に伴うリライト

テクニカルライティング技術の「土台」

- TC協会での調査報告書の「土台」となったもの
 - 「わかりやすいマニュアルを作る 文章・用字用語ハンドブック」
テクニカルコミュニケーション研究会編
(日経BP出版センター、1995年初版)
 - 「説得できる文章・表現の200の鉄則」
永山嘉昭編著(日経BP出版センター、1992年初版)
 - 「ザ・テクニカルライティング」高橋昭男著(共立出版、1993年初版)
- 周辺技術として根拠としてきたもの
 - 「誰のためのデザイン？ 認知科学者のデザイン言論」
D.A.ノーマン著、野島久雄訳(新曜社、1990年)
 - 「一目でわかる表現の心理技法」
海保博之著(共立出版、1992年)
- さらにさかのぼり、すべての原典は・・・
 - 「理科系の作文技術」木下是雄著(中央公論社、1981年初版)

(3)『日本語スタイルガイド』の活用事例

- ① TC技術検定3級[TW]試験のガイドブック
- ② 「出前セミナー」のテキスト
- ③ 高等教育におけるTC専門課程のテキスト

① TC技術検定3級[TW]試験での活用

- TC技術検定試験とは、説明技術を高め、専門家を育成し、一定レベルに到達したかどうかを評価する制度
- 目的
 - テクニカルコミュニケーション技術の到達度を、全国規模の統一的な基準で検定し、技術の向上や人材の育成に活用する。
 - テクニカルコミュニケーション技術やテクニカルコミュニケーションの職域についての社会的認知度を高め、優秀な人材の確保や発掘に役立てる。
 - テクニカルコミュニケーション技術の開発、人材育成に必要な教育システム、評価システム、および教材の開発を促進させる。
- 検定の種類
 - 2級使用説明制作実務[MP]試験
 - 2級 使用説明制作ディレクション[DR]試験
 - 3級 テクニカルライティング[TW]試験
- 実施時期
 - 年2回(2月:2級[MP]・3級[TW]、7月:2級[DR]・3級[TW])

TC技術検定実施の変遷

| | |
|---------|---|
| 1998.2 | 「テクニカルコミュニケーション技術検定<分野:テクニカルライティング>3級試験」開始、2003年2月まで毎年実施 |
| 2001.2 | 「テクニカルコミュニケーション技術検定<分野:テクニカルライティング>2級試験」を追加、2003年2月まで毎年実施 |
| 2004.2 | 実施中の2試験の枠組みを見直し、「テクニカルライティング分野初級」試験、「テクニカルライティング分野上級」試験と改称、2009年2月まで毎年実施 「マニュアル制作ディレクション分野」試験を追加、毎年実施 |
| 2007.2 | 「マニュアル制作ディレクション分野」試験の技術内容を見直し、2009年2月まで実施 |
| 2010.2 | 『日本語スタイルガイド』に基づき試験内容と方式を見直し、「TC技術検定3級テクニカルライティング[TW]試験」開始、2010年から毎年2月・7月実施中 |
| 2010.7 | 「TC技術検定2級使用説明制作ディレクション[DR]試験」と改称、2012年から毎年7月に実施中 |
| 2010.10 | 「テクニカルライティング分野上級」試験を土台とし、印刷媒体を対象にライティングおよび制作ツールの活用、企画・構成や表現設計、ビジュアル表現など制作実務に根ざしたものに改訂し、「TC技術検定2級使用説明制作実務[MP]試験」開始、2011年から毎年2月に実施中 |

3級[TW]試験の検定内容

■ 技術水準

- 日本語の表記、文法、用字・用語を含む日本語スタイルガイドやライティング技術
- ライティング技術を深めるために必要なテクニカルライティング技術の要点(情報理解と文脈の組み立て、推敲とリライト、読み手を考えたライティング技術)、
- テクニカルコミュニケーション技術の基礎(表現設計、文書の構造化、ライティングツール、コンプライアンスなど)

■ 到達目標

- ビジネスや生活で情報を伝えるとき、論文や業務文書をはじめ、説明書や技術文書を書くとき、読みやすく、わかりやすく、正確な文章を書くことができる。

■ 受験対象

- 日本語の文章表現技術を高めたい方
- テクニカルライティングを学習した方であれば、マニュアルや使用説明などの制作実務経験を持たなくても受験可能

3級[TW]試験の検定内容(技術要素)

- 本書の編・章・節・項を順に、大区分・中区分・小区分・細目と当てはめて検定内容を設定
- 第2編⇒大区分2「日本語スタイルガイド」の技術要素

中区分2：読みやすいライティング

| 小区分 | 細目 |
|---------|--|
| 1 文体と時制 | (1) 文体の違いを理解し、本文を「ですます調」で書ける |
| : | : |
| 2 一文一義 | (1) 1つの文に1つの主題で書ける (2) 1つの行動を1つの文で書ける |

中区分3：誤解されないライティング

| 小区分 | 細目 |
|------------|--|
| 1 否定表現 | (1) 肯定文で書ける |
| : | : |
| 5 範囲、起点の表現 | (1) 「以」の意味を理解し、「以下」「ら」「はじめ」「ほか」は、「～を含む」と表現できる (2) 「未満」「～を超えて」の意味を理解し、「以下」「以上」に置き換えられる |

3級[TW]試験の検定内容(例題)

■ 区分2.2.2「読みやすいライティング」の例題

【問】一文一義になっていない文は、次のうちどれか。

- ア アジャスターが本体に収納されていない状態で動かすことは禁止されています。
- イ キャリングケースなどに収納する際は、16 ページに記載されている「電源を切る」の手順に従ってください。
- ウ パスワードの入力に3 回続けて失敗すると、それ以降の操作ができなくなります。
- エ 表示言語は15 言語の中から選ぶことができますが、お買い上げ時は英語に設定されています。

■ 区分2.3.5「誤解されないライティング」の例題

【問】参加者の人数が最も明確に表現できているものは、次のうちどれか。

- ア 中村様ら、6 名が出席します。
- イ 中村様をはじめ、6 名が出席します。
- ウ 中村様を含め、6 名が出席します。
- エ 中村様以下、6 名が出席します。

② 出前セミナーでの活用

- 『日本語スタイルガイド』の主要な内容に沿った、マニュアルなど使用説明のライティングに焦点を当てたセミナー
- セミナープログラム概要
 1. 制作環境の変化と現在の使用説明
 2. テクニカルライティング技術とテクニカルコミュニケーション技術
 3. 日本語スタイルガイドに沿ったライティング技術
 4. 適切なコンテキストの組み立て
 5. 構造化に配慮した文書設計
- 講義形式・所要時間
 - 講義＋実技演習(ワークショップ)・3.5時間
- 受講対象者
 - マニュアルなど、使用説明の現場担当者および管理者
関連部門でライティング技術に関心のある方
- 開催条件
 - 企業単位・事業所単位、1開催あたり25名まで

③ 高等教育におけるTC専門課程での活用

- テクニカルコミュニケーター専門課程制度(略称:TC専門課程)・・・大学など高等教育機関でTC協会が定めた「知識と能力のリスト」(右表)にあげる分野ごとの内容を修得できる科目を履修し、必要単位を修得した学生を認定する制度
(大学から設置申請が必要)

*「TC基礎」のテキストとして使用

**TC技術検定3級[TW]試験合格で代替可、テキストとして使用

- ➔ 2012年度から、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類で開始

| 分野 | | 必要 単位数 |
|----------|--------------|-----------|
| TC基礎* | | 2 |
| | 制作実習 | |
| | 情報収集と分析 | 2 |
| | 企画・設計 | 2 |
| | 情報アーキテクチャー | 2 |
| | 制作管理・ディレクション | 2 |
| | デザイン・表現設計 | 2 |
| | 日本語ライティング** | 2 |
| | 英文ライティング | |
| 周辺 分野 | ユーザーインターフェイス | 2 |
| | コンプライアンス | |
| | 異文化理解 | |
| 合計 | | 18 |

●最後に・・・新しい動き

- 文部科学省 新指導要領において国語・言語教育の見直し
 - 初等・中等教育すべての教科において、「言語学習を充実」させる
 - 国語において、「題材を読む」中心の教育から、「日常生活に関わることも含め、構成を考えて、的確に話す・聞く・書く態度を目標にする
URL→ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm
 - TC協会でも調査を開始
- ワールドワイドでTC教育・資格検定の開始
 - 国際TC検定試験、およびTC TrainNet(独tcworld主催)
 - TC協会は、アジア地区の包括的認定パートナー
 - 日本では、本年6月から募集開始
- 学術研究の開始
 - 「テクニカルコミュニケーション学術研究会」が2012年3月に発足
URL→ <http://www.as-tc.org/#top>